



サークル「竹取の里」および「かぐや姫合唱団」創立趣意書

名称

本団体は、正式名称を、サークル「竹取の里」(英文名称：“Taketori” Circle <= Circle, “The Bamboo-cutter’s Village” >)とし、略称を TC とします。さらに、同サークル内に設置された合唱団を「かぐや姫合唱団」(英文名称：Kaguya-hime Chorus)とし、略称を KHC とします。

創立趣旨

オペラ「かぐや姫」(作曲・台本：平井 秀明)のさらなる成長のために、このオペラを愛し育てたい気持ちに溢れる有志により、日々の地道な演奏および種々の活動を通して、オペラ「かぐや姫」をより浸透させることで、希薄となりつつある現代の家族の絆を強める一助となり、さらには日本のみならず世界のオペラ界にも寄与することを目的とし、ここにサークル「竹取の里」および「かぐや姫合唱団」を創立します。

サークル「竹取の里」は、音楽を通じて広く交流・親睦を図る団体として、オペラを始め合唱・音楽を愛するものの交流の場です。オペラ「かぐや姫」を歌い育てる合唱団の母体でもあり、出演可否に拘わらずこの趣旨に賛同される方々全員で構成される“緩やかな”非公式の団体です。対内的には、サークル「竹取の里」の代表は「^{さとあき}里長」、メンバー(会員)は「^{さとびと}里人」、「かぐや姫合唱団」としては当オペラの登場人物にちなみ、団長は「天の王」、団員(会員)は「兵士」(男声)・「天女」(女声)の愛称で呼ぶことにします。

なお、サークル「竹取の里」の名称は、2006年10月5日に世田谷区の松本記念音楽迎賓館で開催された、かぐや姫を偲ぶ「観月の宴」に付けられたものを採用させて頂きました。

サークル「竹取の里」の里人(会員)は、通常は全員が「サポート会員」ですが、公演参加や練習参加の際には、「アクティブ会員」として音楽活動に励み、その他の「サポート会員」は聴衆側支援・応援団メンバーとして、「アクティブ会員」の活動を支援します。

「サポート会員」は、基本的には拘束されない緩やかな会員ですので、「アクティブ会員」が合唱団の中核メンバーとして積極的に参加するのみならず、聴衆側支援・応援団メンバーが時には合唱練習などにも参加して「アクティブ会員」となることや、都合により公演に参加できないメンバーが合唱練習へ参加することも大いに歓迎します。

また、サークル「竹取の里」は、メンバーが気軽に集まり、その輪が広がることを期待しています。音楽は、「演奏者」と「聴衆」によりはじめて成り立ちますので、そのメンバーは歌唱経験がなく合唱に参加しなくても聴衆側の応援団（「サポート会員」）



として参加でき、広義の緩やかな集まりとしての「合唱団」と考えられます。

「かぐや姫合唱団」の名称は公演の際などに使用し、公演参加者はその都度同団員とします。公演や応援の際には、従来通り公演地を含めた「オペラ「かぐや姫」妙高合唱団」などと名乗ることにします。これは、公演地で複数団体が合同で合唱を編成する場合、団体名でもめることを避けるためと、「かぐや姫」を通じて参加者の団結を促進し、さらには現地で「かぐや姫」初参加の合唱団を経験者が応援のため参加しやすいように、地元合唱団の名称を敢えて使用しないようにしてきた経緯があるためです。

創立背景

オペラ「かぐや姫」はパイオニア合唱団の制作によるホールオペラ形式ですが2003年2月16日目黒に生まれたオペラ「かぐや姫」実行委員会により、めぐろパーシモンホール大ホール（東京）で世界初演され、大絶賛を浴びて産声をあげました。その後、「かぐや姫と帝の“愛の二重唱”」と題して、2004年7月25日にパイオニア本館別館でプチ・サロン・コンサート、同年9月23日に浜離宮朝日ホールでオペラ・サロン・コンサートが抜粋で上演され、2005年2月27日には徳島市文化センターでハイライト上演されました。

さらに、2006年6月16日（日豪友好協力基本条約締結30周年記念日）にはオーストラリア・首都特別区キャンベラ・ルエレンホールで“日豪交流年2006”のメインイベントとして初の海外公演を果たし、その直後2006年7月9日には和光市民文化センター大ホール（埼玉県）でオペラ「かぐや姫」～平安音楽絵巻～（全2幕）と題して完全なグランドオペラとして初めて上演され、大成功を収めました。またその年末12月3日に妙高市文化ホール（新潟県）リニューアルオープン記念事業として、市民参加により全2幕が上演されました。オペラ「かぐや姫」としては、過去7回上演されたことになり、3年あまりの間に大きく成長してきました。

オペラ「かぐや姫」は、作曲・台本を手がけた平井秀明氏が自ら述べておられるように、“親子孫 3 世代で楽しめるオペラ”として、ユニバーサルな視点で作曲され誕生したものです。そして、この作品は、今まさしく、その意図を汲んで一段と大きく飛躍し始めようとしています。

日本人なら誰もが親しみを感じ、次世代に伝えたい日本最古のおとぎ話「竹取物語」を元に台本を興し、作曲されたオペラ「かぐや姫」は、その作品の物語性と非常に美しいメロディーにより、日本オペラの一作品としてのみならず、世界中で愛され広がっていくものと思われまます。そして、2009 年にはチェコ共和国の首都プラハでの公演により、欧州デビューも計画されています。

このオペラの合唱曲は、プロ対象に限定することなく、アマチュアでも取り組み易く作曲されていることもあり、一度参加して、その魅力にとりつかれ、心を寄せ合おうとするアマチュア音楽家があちらこちらにおられます。オペラの公演は大変な資金と労力が必要ですが、こうした皆様の意思をひとつにし、仲間の輪をさらに広げて行くことが、このオペラの再演の場を呼ぶ原動力となりましょう。同時に後述のような各地での公演企画の実現の柱となる常設の合唱団が必要不可欠との判断に至りました。

また、これまでオペラ「かぐや姫」が各地で再演される際には、新たに「かぐや姫」に挑戦する地元合唱団の方々を応援したいという熱意により、同オペラ歌唱経験者有志が結集し現地に赴き、ともに歌う機会を共有することで親睦の輪を広げてまいりました。さらに地元の方々のご案内による観光名所巡りも、良き思い出となり、絆がさらに強化されました。当サークルおよび合唱団の活動拠点は東京に置きますが、将来予定されている各地での再演の際には、志を同じにする日本全国の方々に、積極的に参加していただけるような“緩やかな”団体にしていこうと考えております。再演の度に新たな仲間が増え、また各地の「里人」との再会の場ともなり、いずれは各地の連絡支部が出来上がれば、と願っております。（「竹取物語」ゆかりの地とされる、全国 7 市町村による「かぐや姫サミット」も、既に存在し、活発な交流活動を行なっているそうです。）

以上の趣旨により、サークル「竹取の里」と「かぐや姫合唱団」を創立しようとするものです。本団体が、オペラ「かぐや姫」を支えることによって、このオペラを少しでも多くの人に聴いて頂ける機会が増え、またそれによって共感を得た仲間を“友好の輪”を広げ、“3 世代間の絆”を筈のようにのびのびと成長させていくことができれば、きっと素晴らしい世界が開けてくることと確信しております。

2008 年 1 月 29 日
創立発起人一同

創立発起人

- 石川 朗 (浜離宮朝日ホール, 和光市公演参加)
小野 敏夫 (浜離宮朝日ホール, 和光市公演参加)
鈴木 道典 (初演, 徳島市, 和光市, 妙高市, 豪州キャンペラ公演等参加)
高砂 顕 (初演, 和光市, 妙高市, 豪州キャンペラ公演等参加)
横田 堯 (初演, 徳島市, 妙高市公演等参加)

五十音順、敬称略。過去に合唱で参加された演奏会を括弧に記載しました。